

「北海道りんどう研究会」の活動について

今回は、空知から「北海道りんどう研究会」の活動についてご紹介します。

北海道のりんどうは、日持ちの良さなど、お盆やお彼岸などに欠かせない花として人気がありますが、最近では、品種改良も進み、従来の紫色に加え、白やピンクなど、フラワーアレンジメントなど利用の幅が広がって、これからも期待される花となっています。

◆北海道りんどう研究会

北海道りんどう研究会は、岩見沢市、長沼町、栗山町の生産者で平成8年2月に設立され、本年で15年目の活動を迎えました。現在は、栗山町の渕野氏が会長です。

研究会では、りんどうの栽培技術向上のための研修や情報交換、販路の拡大に向けた活動が実施されています。

◇生産概要

23年度 生産者40名、作付面積 約10ha

22年度 出荷本数は258万本、

出荷金額 約1億2千万円

全道一の産地となっており、

統一ブランド「北のりんどう」として、

道内外に出荷されています。



◆りんどう栽培

原産地が、釧路湿原で冷涼湿潤な気候を好む花であり、露地栽培に適した花として、空知では平成7年頃に転作作物として導入が始まりました。

一部ハウス栽培もありますが、花にはめずらしく露地栽培が主流となっています。

収穫までは、3年かかり、同じ株で10年ほど収穫できます。

◆花束贈呈

毎年、お盆の時期を迎える時期に、知事や空知総合振興局長へりんどうの花束が贈呈されています。今年も、大きな花束とアレンジメントをプレゼントしてくれました。



高橋知事 花束贈呈 (H23. 8. 9)



武田局長 花束贈呈 (H23. 7. 25)

今回いただいた「りんどう」は、3色。

おなじみの紫は「ヴィオラ」、白は「ホワイトベル」、
紫と白の絞りは「パステルベル」という品種です。

仏花としてのイメージが強い花ですが、アレンジ次第で こんな豪華な花束に変身しました。

皆さんも、来年の夏には、涼やかな「りんどう」を飾ってみてはいかがでしょうか？

(平成23年11月 空知総合振興局農務課)